

1 調査目的

生物多様性や環境教育の推進に関する人々の意識を把握し、茨城の生物多様性戦略アクションプラン案の策定に向けた基礎資料とするため、本調査を実施しました。

2 結果の概要

〈「生物多様性」の認知度〉

- ・回答者の約 8 割が「生物多様性」という言葉を認知していたが、意味まで把握している人の割合は、全体の 34.4%であった。今後は、「生物多様性」という言葉の意味を理解している人を増やしていく必要がある。

〈生物多様性の保全のために取り組むべき施策〉

- ・生物多様性の保全のために取り組むべき施策は、「里山や農地など、身近な自然環境の保全（33.2%）」や「外来種による生態系への影響の防止（21.6%）」、「絶滅のおそれのある希少野生動植物の保護（8.3%）」などが重要視されていた。

〈環境教育に関する事項〉

- ・生物多様性の保全等のために環境教育を推進することについて、「有効である」または「やや有効である」と回答した割合は全体の 9 割程度を占めていた。
- ・環境についての学習に対して、興味があり、実践したことがある割合が 3 割程度、興味はあるが実践していない割合は 5 割程度、関心がないと回答した割合は 1 割程度であった。
- ・環境教育を推進するために今後、行政が取り組んでいくべき施策として、「学校における環境教育の充実（23.3%）」と「環境教育を推進する人材の育成（18.3%）」が重要視されていた。

〈自然環境などに関する満足度〉

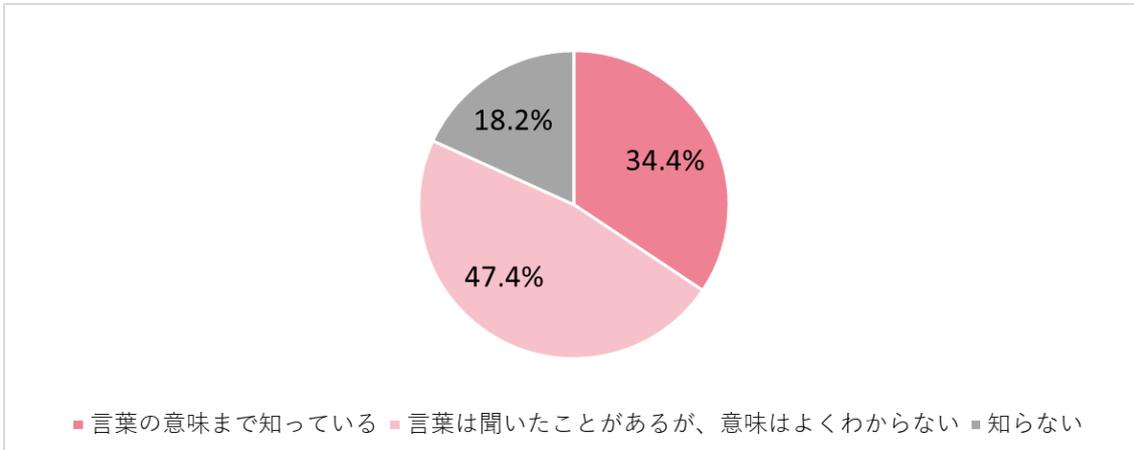
- ・自然環境などに関する満足度（「満足」＋「やや満足」）について、緑とのふれあいに対する満足度は約 7 割、野鳥や昆虫との親しみについての満足度は約 5 割、水や水辺とのふれあいに対する満足度は約 5 割、野山などの自然景観についての満足度は 6 割弱という結果であった。

【問1】（「生物多様性」の認知度）

あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

◇全回答者

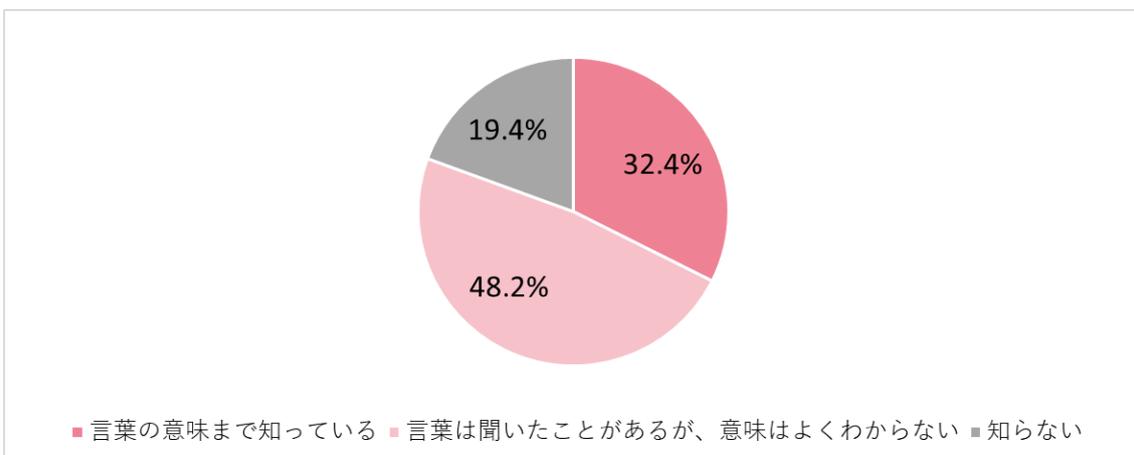
(n=1,128)



○「言葉は聞いたことがあるが、意味はよくわからない」と回答した割合が47.4%（535人）と最も高く、次いで「言葉の意味まで知っている」34.4%（388人）、「知らない」18.2%（205人）の順に高かった。

◇県民（回答者のうち県外在住者除く）

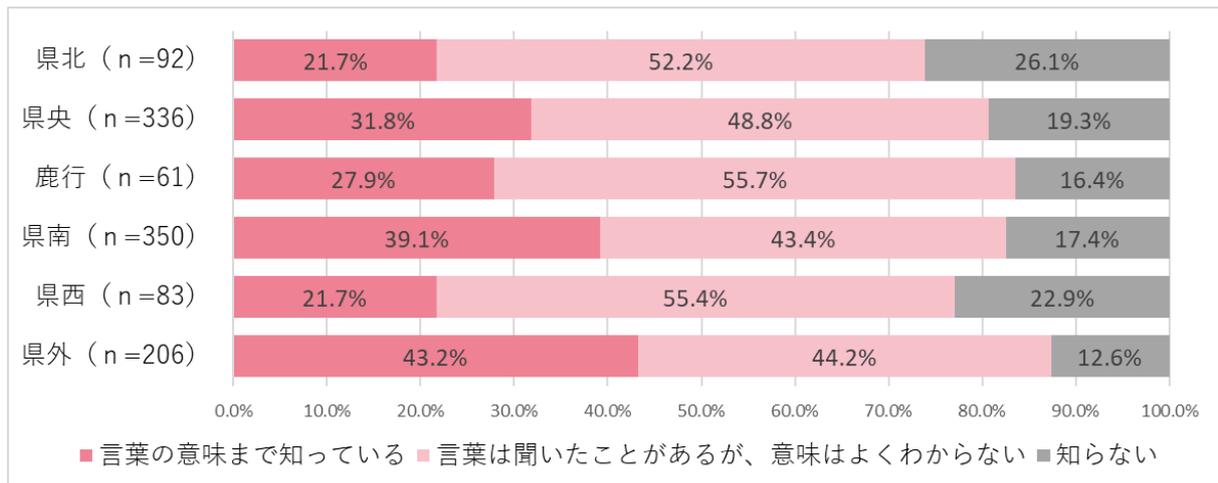
(n=922)



○県民では、「言葉は聞いたことがあるが、意味はよくわからない」と回答した割合が48.2%（444人）と最も高く、次いで「言葉の意味まで知っている」32.4%（299人）、「知らない」19.4%（179人）の順に高かった。

◇地域別

(n=1,128)



○県内で「言葉の意味まで知っている」と回答した割合が最も高かった地域は、県南の 39.1% (137 人) で、次いで県央の 31.8% (107 人) であった。

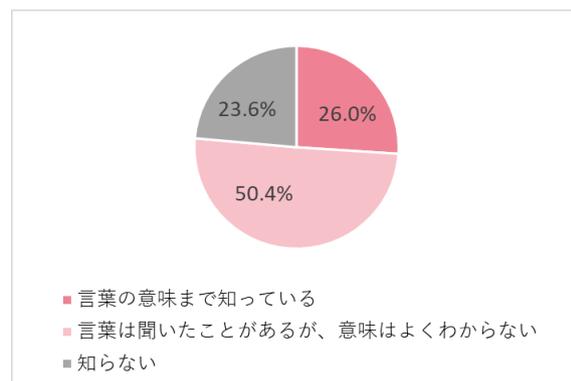
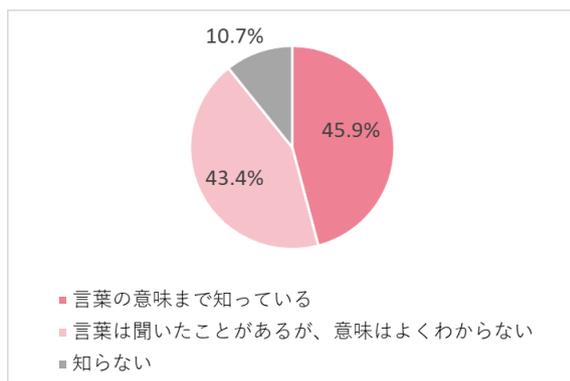
◇男女別

【男性】

(n=475)

【女性】

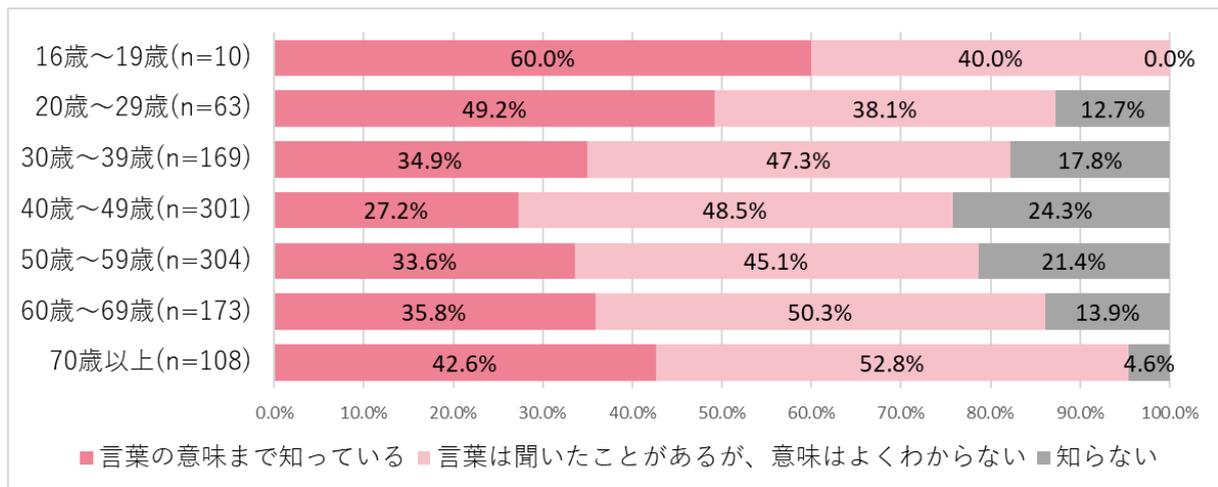
(n=653)



○男性で「言葉の意味まで知っている」と回答した割合が 45.9% (218 人) と全体の半分近い割合であったのに対して、女性で「言葉の意味まで知っている」と回答した割合は 26.0% (170 人) と全体の 3 割に満たなかった。

◇年齢階級別

(n=1,128)



○「言葉の意味まで知っている」と回答した割合は、若年者（10代、20代）及び70歳以上が比較的高い結果となった。

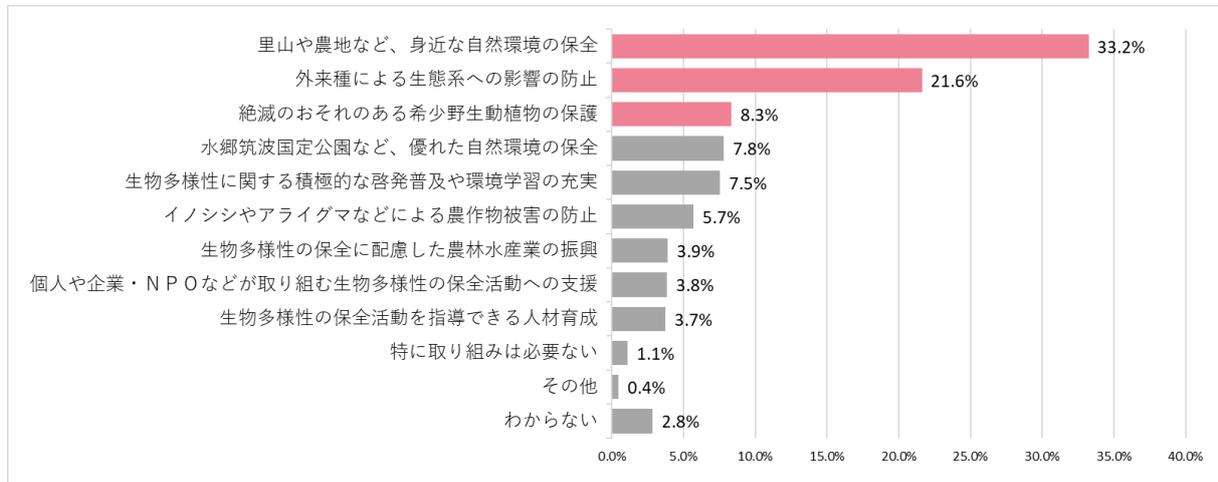
○「言葉の意味まで知っている」と回答した割合が最も低かった年代は40歳～49歳の27.2%（82人）であった。

【問2】（生物多様性の保全のために取り組むべき施策）

あなたは、生物多様性（※）を守っていくため、今後、行政はどのような施策に取り組んでいくべきだと思いますか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

※「生物多様性」とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことです。多種多様な生物がこの地球の中で共存していることを言います。

(n=1,128)



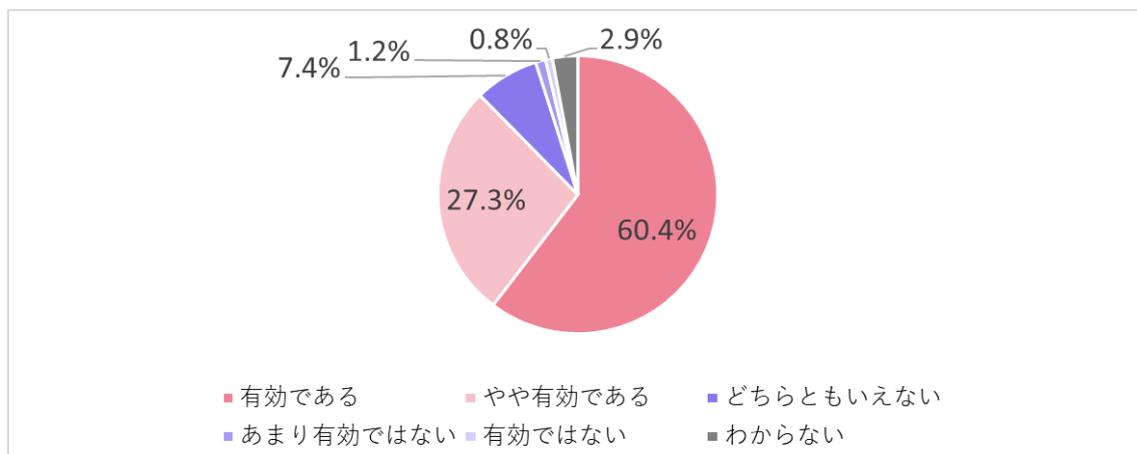
○「里山や農地など、身近な自然環境の保全」と回答した割合が33.2%（375人）と最も高く、次いで「外来種による生態系への影響防止」21.6%（244人）、「絶滅のおそれのある希少野生動植物の保護」8.3%（94人）の順に高かった。

【問3】（環境教育推進の有効性）

あなたは、生物多様性の保全等のために環境教育（※）を推進することについて、有効であると考えますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

※「環境教育」とは、環境の保全についての理解を深めるために行われる教育及び学習のことを言います。

(n=1,128)

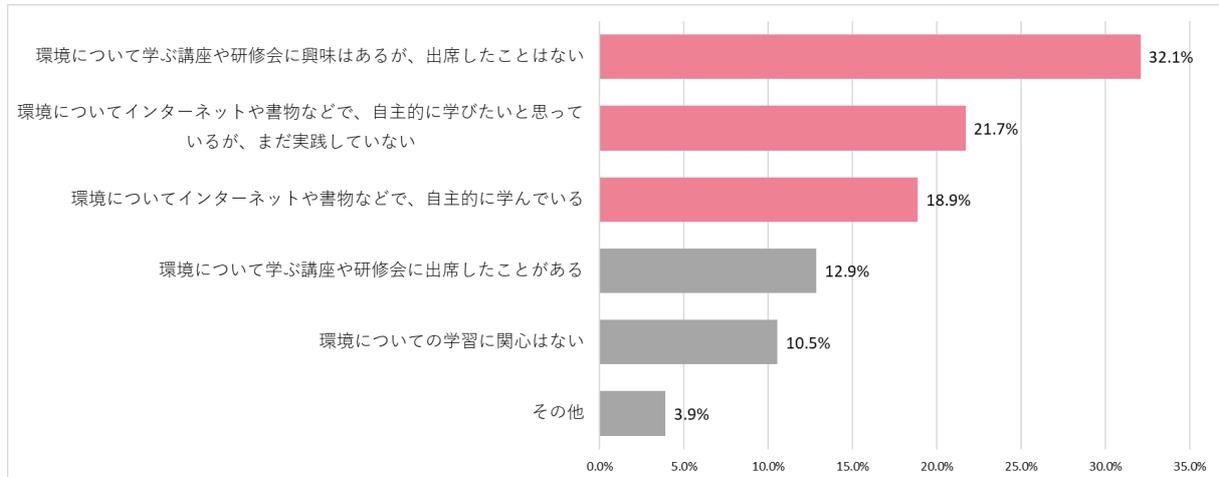


○「有効である」と回答した割合が60.4%（681人）、「やや有効である」と回答した割合が27.3%（308人）であり、9割近くの人々が生物多様性の保全等のために環境教育を推進することに有効性を感じていた。

【問4】（環境に対する学習意欲）

あなたは、環境についての学習にどの程度関心がありますか。次の中から、最もあてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)

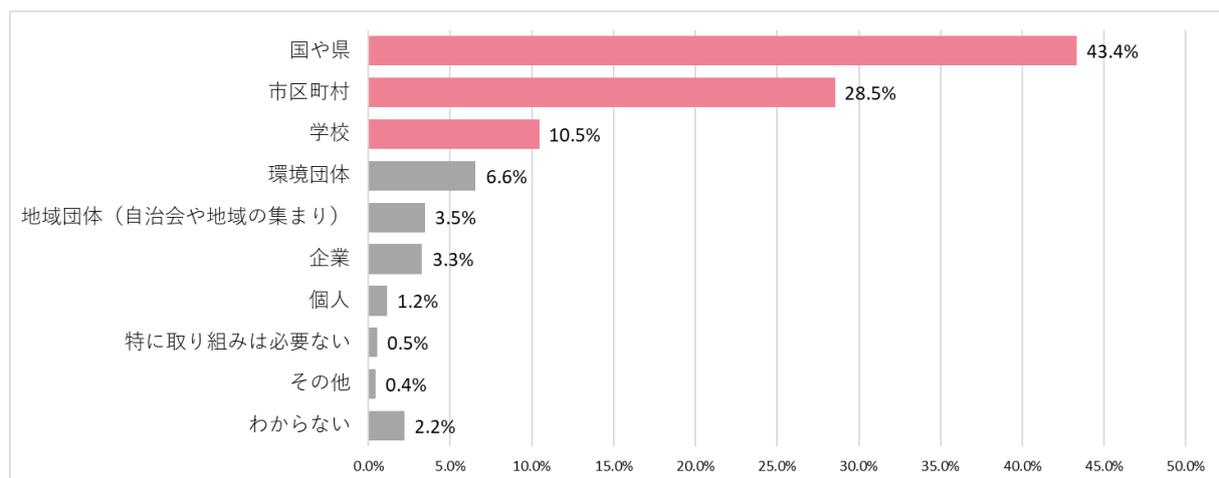


○「環境について学ぶ講座や研修会に興味はあるが、出席したことはない」と回答した割合が32.1%（362人）と最も高く、次いで「環境についてインターネットや書物などで、自主的に学びたいと思っているが、まだ実践していない」が21.7%（245人）、「環境についてインターネットや書物などで、自主的に学んでいる」が18.9%（213人）の順に高かった。

【問5】（環境教育推進に取り組むべき主体）

あなたは、環境教育推進に取り組むべき主体として、どのような組織・団体等が最もふさわしいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)

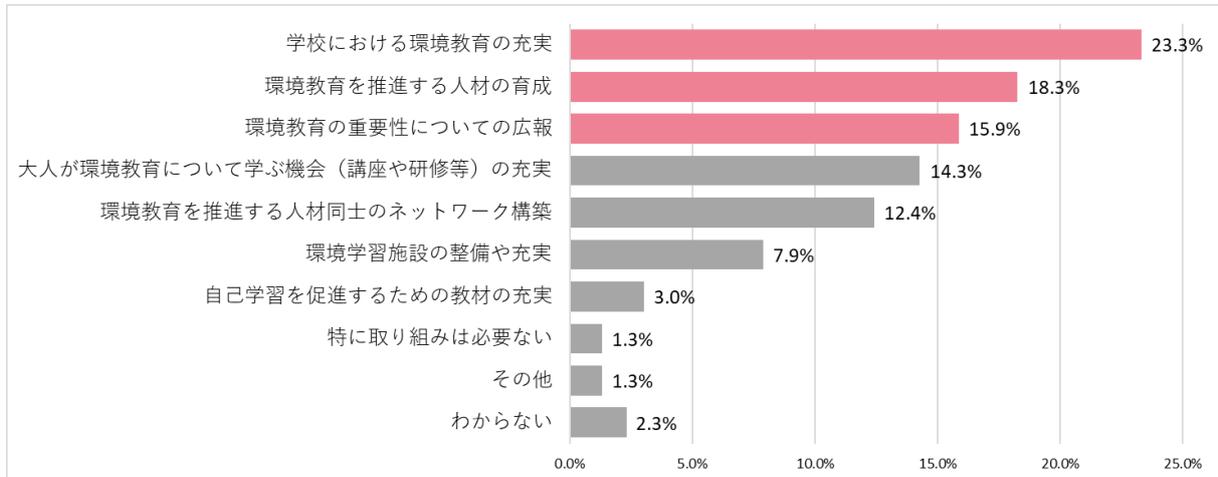


○「国や県」と回答した割合が43.4%（489人）、「市区町村」と回答した割合が28.5%（322人）であり、約7割の回答者が、国や地方公共団体を環境教育の推進に取り組むべき主体として回答していた。

【問6】（環境教育推進のため取り組むべき施策）

あなたは、環境教育を推進するため、今後、行政はどのような施策に取り組んでいくべきだと考えますか。次の中から、最もあてはまるものを1つ選んで下さい。

(n=1,128)

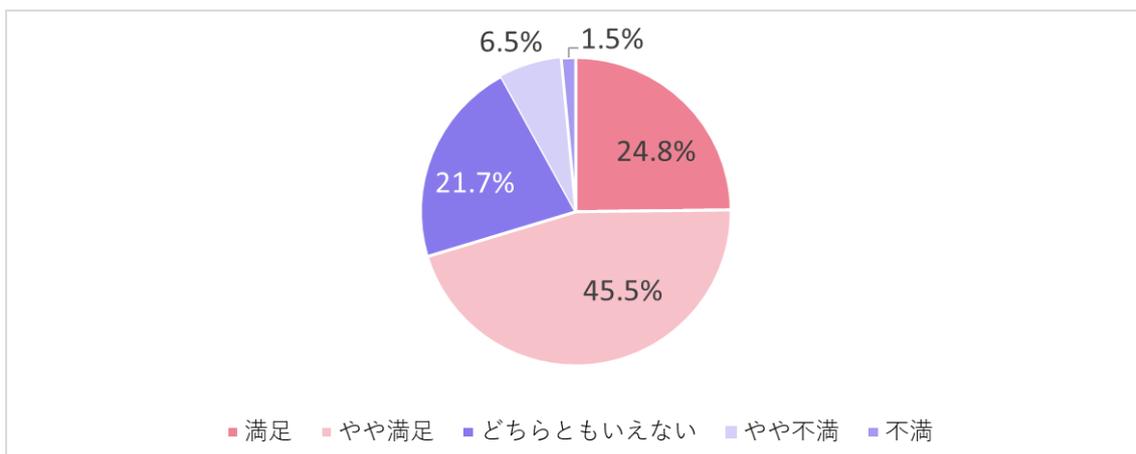


○「学校における環境教育の充実」と回答した割合が23.3%（263人）と最も高く、次いで「環境教育を推進する人材の育成」が18.3%（206人）、「環境教育の重要性についての広報」が15.9%（179人）の順に高かった。

【問7】（緑とのふれあい）

あなたは、緑とのふれあいについて、どの程度満足していますか。次の中から、最もあてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)

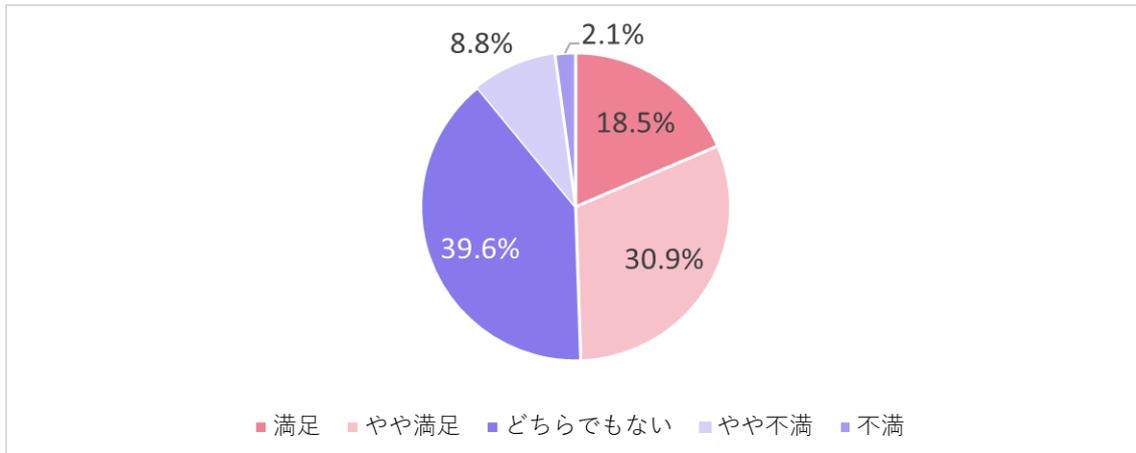


○「満足」と回答した割合が24.8%（280人）、「やや満足」と回答した割合が45.5%（513人）であり、満足しているという回答は全体の7割に及んだ。

【問8】（野鳥や昆虫との親しみ）

あなたは、野鳥や昆虫との親しみについて、どの程度満足していますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)

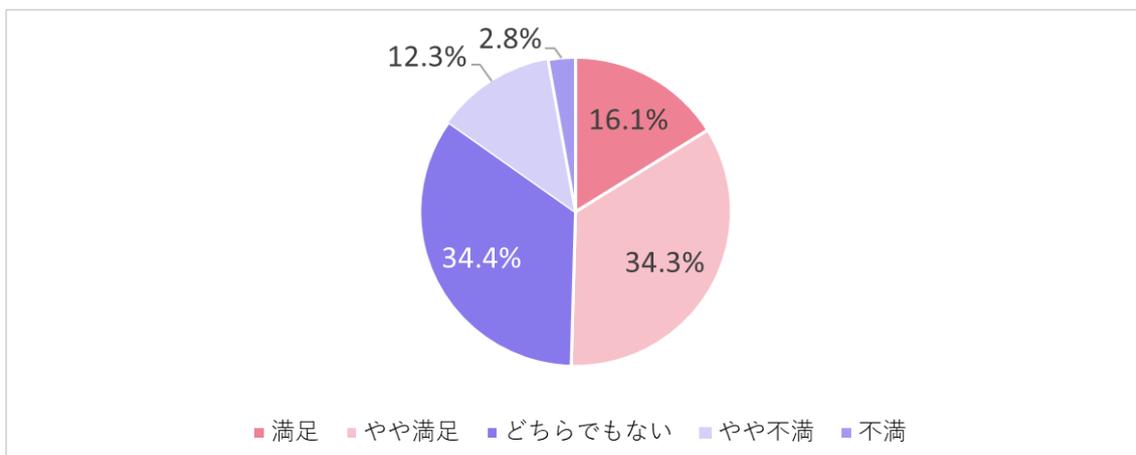


○「満足」と回答した割合が18.5%（209人）、「やや満足」と回答した割合が30.9%（349人）であり、全体の約半分が満足しているという回答であった。

【問9】（水と水辺とのふれあい）

あなたは、水と水辺とのふれあいについて、どの程度満足していますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)

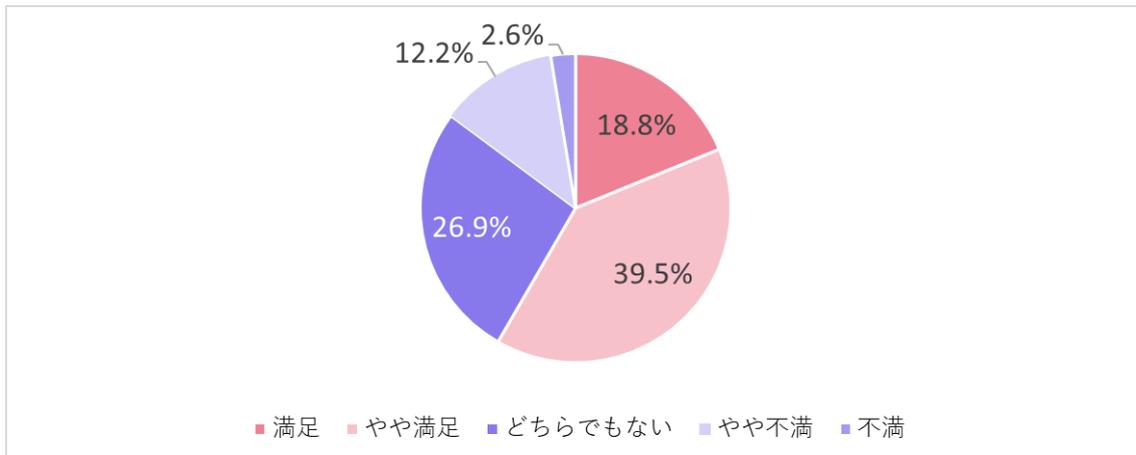


○「満足」と回答した割合が16.1%（182人）、「やや満足」と回答した割合が34.3%（387人）であり、回答者の約半分が満足しているという回答であった。

【問 10】（野山などの自然景観）

あなたは、野山などの自然景観について、どの程度満足していますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)

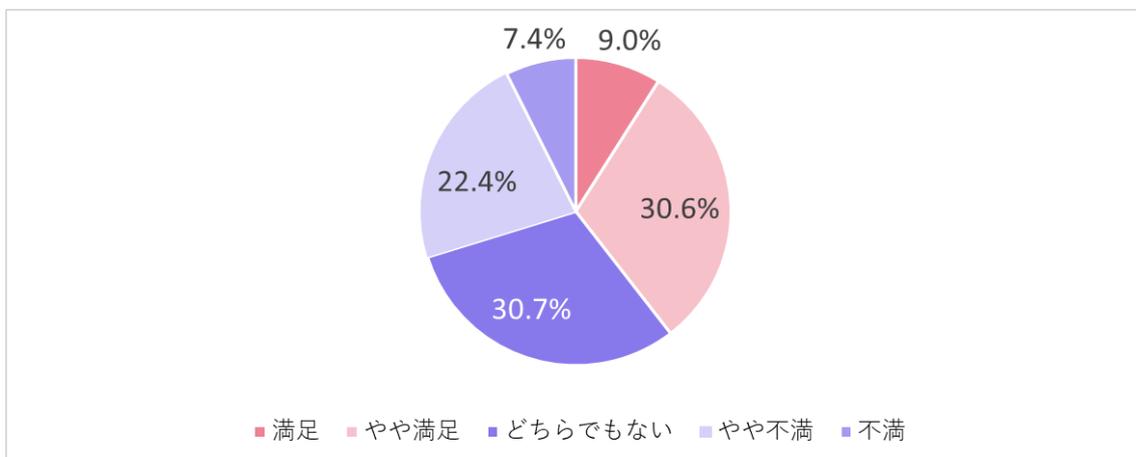


○「満足」と回答した割合が 18.8%（212 人）、「やや満足」と回答した割合が 39.5%（446 人）であり、回答者の 6 割近くが満足しているという回答であった。

【問 11】（まちなみの美しさ）

あなたは、まちなみの美しさについて、どの程度満足していますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)



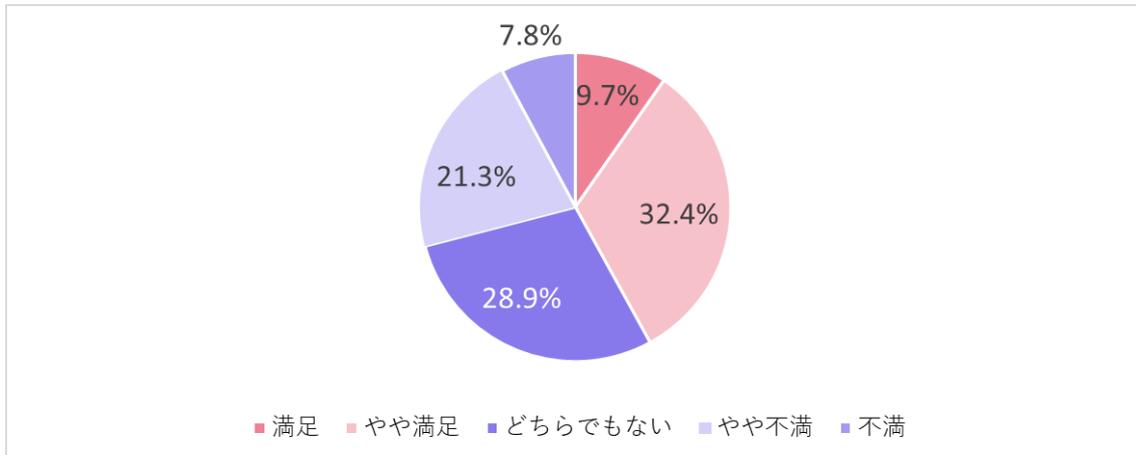
○「満足」と回答した割合が 9.0%（101 人）、「やや満足」と回答した割合が 30.6%（345 人）であり、満足しているという回答が全体の 4 割に満たなかった。

○「不満」と回答した割合が 7.4%（83 人）、「やや不満」と回答した割合が 22.4%（253 人）であり、不満があるという回答は全体の 3 割近くみられた。

【問 12】（公園・レクリエーション施設の快適さ）

あなたは、公園・レクリエーションの施設の快適さについて、どの程度満足していますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,128)



- 「満足」と回答した割合が9.7%（109人）、「やや満足」と回答した割合が32.4%（365人）であり、満足しているという回答が全体の約4割であった。
- 「不満」と回答した割合が7.8%（88人）、「やや不満」と回答した割合が21.3%（240人）であり、不満があるという回答は全体の3割近くみられた。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・「生物多様性」という言葉の認知度は高いが、その意味まで知っている人の割合は低いため、普及啓発事業が必要である。
- ・茨城の生物多様性戦略アクションプラン案のアクションを検討するにあたり、「生物多様性の保全のために取り組むべき施策」の参考資料として使用する。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：2024年5月7日～2024年5月20日

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,501名

回収率：75.1%（回収数 1,128名）

回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		1,128	100.0
地域別	県北	92	8.2
	県央	336	29.8
	鹿行	61	5.4
	県南	350	31.0
	県西	83	7.4
	県外	206	18.3
性別	男性	475	42.1
	女性	653	57.9
年齢別	16～19歳	10	0.9
	20～29歳	63	5.6
	30～39歳	169	15.0
	40～49歳	301	26.7
	50～59歳	304	27.0
	60～69歳	173	15.3
	70歳以上	108	9.6
職業別	自営業	89	7.9
	会社員	427	37.9
	団体職員	50	4.4
	公務員	52	4.6
	主婦・主夫	239	21.2
	学生	24	2.1
	無職	123	10.9
	その他	124	11.0

(2) 担当課

茨城県県民生活環境部環境政策課（生物多様性センター）

電話：029-301-2940

E-mail：tayousei@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。